

## 第24回Lアラート運営諮問委員会 議事概要

○ 日時

平成30年6月14日(木)13:30～15:00

○ 場所

一般財団法人マルチメディア振興センター 大会議室

○ 出席者(敬称略、順不同)

【委員】

宇佐美 理(日本テレビ放送網株式会社)、宇佐美 幸一(東京電力パワーグリッド)、  
及川 史弘(東北放送)、音 好宏(上智大学)、熊田 唯志(日本コミュニティ放送協会)、  
芝 勝徳(神戸市外国語大学)、柴田 正登志(名古屋テレビ放送)、下谷 信幸(メイテツコム)、  
須田 徹(東京都)、仁平 成彦(エフエム東京)、橋爪 尚泰(日本放送協会)、畠 良(ヤフー)

【オブザーバー】

岡澤 尚美(消防庁)  
和田 豊(気象庁)  
安斎 茂樹(日本民間放送連盟)  
加藤 主税(総務省)  
前田 京太郎(総務省)  
吉野 浩章(総務省)  
真鍋 弘毅(総務省)

【発表者】

越智 俊貴(テレビ埼玉)

【事務局(FMMC)】

坪内 和人、井筒 郁夫、川村 一郎、川喜多 孝之

○ 欠席者(敬称略、順不同)

安藤 広和(日本ガス協会)、中森 広道(日本大学)、長谷川 景三(京都府)  
山本 学(日本ケーブルテレビ連盟)、山本 孝(ジェイアール東日本企画)

○ 代理出席(敬称略、順不同)

大石 剛(静岡新聞社) →金原 正幸  
武居 弘純(日本電信電話) →花石 啓介  
田嶋 炎(日本民間放送連盟) →安斎 茂樹

○委員の交代

安藤広和(一般財団法人日本ガス協会)

宇佐美幸一(東京電力パワーグリッド株式会社)

及川史弘(東北放送)

○ 資料配布

資料24-1 Lアラートの運用状況について

資料24-2 作業部会の活動状況について

資料24-3 Lアラート×テレ玉データ放送

資料24-4 Lアラート全国合同訓練 2018 実施結果

資料24-5 情報伝達者に対するアンケート調査の結果について

資料24-6 第Ⅱ期Lアラート中期的運営方針のレビュー(委員のみ配布)

<参考資料> Lアラート運営諮問委員会および作業部会構成員

1. 開会

坪内理事長より開会の挨拶があった。

2. 議事

(1)構成員自己紹介

交代された委員の方から自己紹介があった。

(2) Lアラートの運用状況について

資料24-1に基づいて、川村部長(事務局)から報告があった。

(3)作業部会の活動状況について

資料24-2に基づいて、川村部長(事務局)から報告があった。

(4)お知らせ情報の伝達について

テレビ埼玉越智様から資料24-3の説明があった。

【主な意見・質疑等】

○ 入力から送何をどうやっているかという事なのですが、お知らせ情報が発信されたらこの内容欄のところにそのままダイレクトでポンと情報が入ってくる事でしょうか。別のところに入って来て、それをここの欄にコピペするような感じでしょうか。(柴田(正)委員)

← 情報の種類によってなのですが、「防災」という情報の種類と「重要」という情報の種類はダイレクトに出ます。普通のお知らせは、こちらで一度止めます。CMSのようなものが入っていて、ここに一度記事にしてしまう形になるので、ダイレクションがそのまま記入したものがデータ放送に出すという形になっています。(テレ玉 越智様)

○ お知らせ情報が入って来ましたが、それをそのまま何もせずに出せるのではなく、ひと手間かけてオンエアされているという事なのですね。(柴田(正)委員)

←サーバーは介していますが、情報としてはスルーしているものとスルーしていないものがあります。

防災となっていて埼玉県内で取り決めをいただいている市町村に対してはスルーになります。それ以外はCMS上に残っているのでボタンを押す必要があります。(テレ玉 越智様)

#### (5) Lアラート全国合同訓練 2018 実施結果について

NHK札幌放送とテレビ信州の報道映像の投影。

資料24-4に基づいて、川村部長(事務局)から報告があった。

#### 【主な意見・質疑等】

○ 弊社も伝えておりましたが、系列のニュース23という番組の中でローカルニュースの差換え枠がありまして、そこでテレビはお伝えしました。静岡新聞は翌日の朝刊でお伝えさせていただきました。(金原委員)

○ NHKでも訓練が終わった後に各放送局に報告を貰ったのですが、ここで参加者が無かった宮城を除く4県についても放送局としては訓練に参加していました。ただ、訓練のやり方として、NHKの場合、実際にデータ放送とか訓練画面を一般視聴者の方に見せるようなやり方と、検証系と言って、表に出さないで内部だけでチェックするやり方があって、今、45放送局のうち、10局が外に出さない方法で訓練に参加して、この4つの県のうち山形は表に出したようですが、4つの県は表に出さないタイプの訓練をやったという事で、県とやりとりはしたのですが見かけ上、訓練に参加していないように見えたのかと思います。私も報告書を一通り見ましたが、幾つか特徴的なものを言いますと、ここ数年、自治体の入力ミスが減っていると書かれている局がありました。全体的にはスムーズな入力が多くなっていますとかミスが減っていますとの報告がありました。一方、量としては、それよりもミスの事を挙げる放送局の方が多くて、残念ながら県が訓練のスタートを忘れていてNHK経由県自治体で始まったとか、県のシステムの問題で自治体の避難対象地区が世帯数とか人数がちゃんと表示されるのだけれど、1自治体で2カ所以上出ると世帯数とか人数が出ないという県のシステムに問題があったという報告もありました。

ただ、全体的にはレベルアップしているという感じは私も聞いて思いましたし、どんどん連携が進んでいる感じがしましたけれど、一方で取り残されているというか連携が深まらずに置いてきぼりになっているような県もあって、やはり地域連絡会などで、さらに関係性を深めていかないと全体が上がる中での落ちてしまう県が目立つようになるのかなと感じました。(橋爪委員)

○ 東京都は昨年度も計画していたのですが、当日、島しょ地区で警報が出てしまい中止させていただいた事も2年ぶりの参加になりました。訓練シナリオは昨年度と変わりなかったのですが、内部ではチャレンジをしまして、この日の同じ時間帯に市町村に対して違う訓練、具体的には内部のテレビ会議の操作訓練とか防災無線を使った通話やFAXを使った通信訓練をダブらせて訓練をしました。区市町村から見れば電話は掛かってくる、テレビ会議の要請は来る、それでいて避難勧告は出さなければいけないと、本番はそういう事もありうるという事で、最初は計画を出した時に区市町村から言われたのですが「頑張ってやってください」と言ってわざとやって見たところ。結果的には若干、発信が遅れたり、内容の整合が取れていなかったりする事があったのですが、皆さん頑張

って頂き、ついて来てくれました。繰り返しになりますが、実際に災害が起きた当日は、そういう事が当然起きるので、東京都も訓練は訓練でやるというのではなく、災害を想定して実践的な訓練をやりましょうという事を実践して来ていますので、Lアラートについてもチャレンジしていただきました。実際に62区市町村のうち、58の区市町村が参加して、4つの団体については、東京都から代理発信をさせていただきました。この4の団体についてもシステムへの投入に慣れている人がやっていたのですけれど、普段は防災業務に従事していなくて、発災時に災害対応に従事するという事で庁舎付近の住宅に家賃が安く入れるという職員が百数十人ほどいるのですが、その職員をこの日に招集をかけて、9時から来たら、「Lアラートというシステムがります。今日はこういう訓練があります。」というレクチャを30分くらいやって、「あなたはこれからこの地区の代行をやってください」という事をやりました。そのため、参加してもらった職員も緊張感を持って、「あなたのワンクリックがテレビに出ましたよね」という事をやりながら半日やったという事で、中身は実践的な訓練をやらせていただきました。今後も中身を実践のスキルを上げられる様な内容に工夫しながら実施していきたいと思っています。(須田委員)

(6)情報伝達者に対するアンケート調査の結果について  
資料24-5について宇田川委員から説明があった。

(7)第Ⅱ期中期的運営方針に基づく取組の現状について  
資料24-6について川村部長(事務局)から説明があった。

### 3. その他(周知事項)

事務局から、次回の運営諮問委員会は11月頃に予定する旨の説明があった。

### 4. 閉会